

今週（4月8日から4月12日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、加重平均レートが週を通して0.077%の横這いで推移した一方、取引残高は減少傾向となった。前週に引き続き邦銀業態を中心に資金調達ニーズが強く、出会い水準は0.075~0.078%近辺で高止まりとなったが、週後半にかけては、今積み期の調達に目途がついた先が取引を控えたことで、0.078%での出会い量が減少した。O/N物の取引残高については、投信業態の運用額が減少した事に伴い、11日(木)には4兆円を下回った(2019年12月30日以来)。

ターム物は、一部業態の調達で0.15~0.25%程度で出会いが散見された。

日銀当座預金残高は、週初557兆円程度からスタートし、国債買入オペによる増加や5年債発行による減少を伴いつつも、概ね558兆円前後で安定して推移した。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、概ね0.03~0.095%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、6Mゾーンが堅調に推移した。

入札では、9日に実施された6M物が強めの結果に、12日に実施された3M物が無難な結果となった。いずれも結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。

なお、短国買入オペは3月12日(火)のオファーを最後に、4週連続で見送りとなった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、小売業、電気機器、建設業、石油など複数の業態が大型発行を実施した。

市場残高は、21兆円台後半から始まり、週後半には22兆円台前半まで増加した。

発行レートについては、引き続き0.1%以上で推移し、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

10日(水)に行われたCP等買入オペは、事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.100%、平均レート0.129%と前回(按分0.080%、平均0.124%)比で、按分、平均ともに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/8 (月)	39,347.04	0.785	151.77	0.077	0.042	5,570,500
4/9 (火)	39,773.13	0.780	151.91	0.077	0.032	5,595,400
4/10 (水)	39,581.81	0.795	151.75	0.077	0.048	5,583,700
4/11 (木)	39,442.63	0.850	152.86	0.077	0.055	5,586,300
4/12 (金)	39,523.55	0.860	153.01	0.077	0.079	5,587,700

来週（4月15日から4月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
4/15 (月)	2月の機械受注統計(内閣府 8:50)			3月の米小売売上高 2月の米企業在庫
4/16 (火)		流動性供給 6,000億円 4/17発行		3月の米住宅着工件数 3月の米鉱工業生産・設備稼働率
4/17 (水)	3月の貿易統計(財務省 8:50) 2月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)			米ページブック 3月のユーロ圏消費者物価指数改定値 3月の英消費者物価指数
4/18 (木)	佐賀県金融経済懇談会において野口日銀審議委員講演 2月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB1Y 32,000億円 4/22発行	流動性供給 5,000億円 4/19発行	3月の米中古住宅販売
4/19 (金)	3月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 58,000億円 4/22発行		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/15 (月)	▲ 100	85,500	85,400	国債買入 国債補完 CP買入 社債買入		12,900 33,200 ▲ 200 ▲ 700	49,200 4,000	134,600	年金定時払い TB3M発行▲58,000 償還56,000 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲2,400 償還1,600 交付税借入▲13,000 期日13,000
4/16 (火)	▲ 500	1,000	500				0	500	
4/17 (水)	▲ 500	2,000	1,500	全店共通	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 6,500	流動性供給▲6,000
4/18 (木)	▲ 1,000	1,500	500				0	500	
4/19 (金)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	流動性供給▲5,000
週間合計	▲ 3,100	85,000	81,900	—	24,300	16,900	41,200	123,100	

4/15は日銀予想、4/16以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、16日(火)から新しい積み期に入り、ビッド数の増加が見込まれることから、引き続き0.077～0.078%の高水準での出会いが中心となろう。債券レポ GC T/N物のレート水準は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、18日(木)に1Y物、19日(金)に3M物の入札実施が予定されている。また、短国買入オペは、需給状況に左右されるが16日(火)に1,000億円程度での実施が予想される。CP市場は、20日を挟む発行集中日が予定されており、参加者の動向が注目される。

主要なイベントは、国内では15日(月)に2月の機械受注統計、17日(水)に3月の貿易統計、19日(金)に3月の全国消費者物価指数(CPI)、海外では、15日(月)に3月の米小売売上高、17日(水)に3月のユーロ圏消費者物価指数改定値などの発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を考慮頂く必要があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。